

中等教育研究開発室年報 第33号（2020年3月31日発行）別冊電子版
2019年度 授業実践事例

国語科 高等学校第I学年

情報と情報の関係に着目して読む「メディアがつくる身体」（荻上千キ）

授業者 村高 聡子

（校内研究授業）

広島大学附属中・高等学校

高等学校 国語科 学習指導案

指導者 村高 聡子

- 日時** 令和元年12月4日(水) 第4限(11:40~12:30)
- 場所** 多目的教室
- 学年・組** 高等学校1年3組39人(男子22人, 女子17人)
- 単元** 情報と情報の関係に着目して読む
- 教材** 「メディアがつくる身体」(荻上チキ) 「国語総合現代文編」(東京書籍)所収
- 目標**
1. 主張と論拠など情報と情報の関係について理解できる。(知識及び技能(2)ア)
 2. 評論の内容や構成, 論理の展開などについて叙述を基に適確にとらえ, 要旨や要点を把握できる。(思考力, 判断力, 表現力等Cア)
 3. 自ら問いを立てることができる。(学びに向かう力, 人間性等)

指導計画 (全6時間)

- 第一次 トールミンモデルを知り, 他教材でトールミンモデルを用いて論証する。 1時間
- 第二次 初読後の疑問から, 問いを立てる。 1時間
- 第三次 主張・根拠・論拠を押さえ, 前半と後半に分けて論証する。 3時間(本時 5/6)
- 第四次 学習を振り返り, 立てた問いを自己評価する。 1時間

授業について

本単元は要旨や要点を把握するために, 評論の内容や構成, 論理の展開について叙述を基に適確にとらえ, 主張と論拠など情報と情報の関係について読み取ることをねらいとした単元である。「高等学校学習指導要領(H30年告示)解説国語編」の以下の指導事項を受け設定した。

【指導事項】現代の国語 思考力・判断力・表現力等

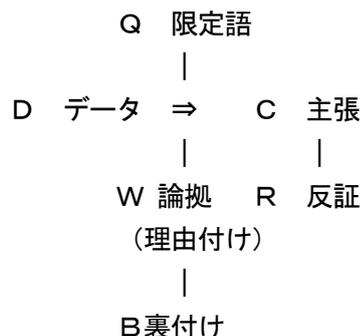
C ア 文章の種類を踏まえて, 内容や構成, 論理の展開などについて叙述を基に適確にとらえ, 要旨や要点を把握すること。

本単元において, トールミンモデルを活用することにより, 情報と情報のつながりをより意識し, 内容を捉えやすくなる考えた。

本教材では, 大きく前半と後半で筆者の論が分かれている。前半の主張が論拠となって, 後半の主張を支えている構造になっている。ただ, 筆者の文章の書き方の特徴として, 次々と繋げていくように書いてあり, 問題提起が明確に掴みづらい。既習の評論文読解の際の, 序論・本論・結論といった枠組みでは捉えにくいと考えた。そこで, 論のつながりを意識して読む取り組みが必要と考え, それが仕組めるトールミンモデルの活用を考えに至ったのである。トールミンモデルはイギリスの哲学者スティーブン・トールミンの論証のモデルである。「高等学校学習指導要領(H30年告示)解説国語編」でも「主張」と「論拠」は定義づけられ, 求められている指導内容であり, トールミンモデルを活用することは適切であると考えた。

まず, 前半部分をワークシートにより根拠と論拠と主張の関係を図式化させ, その後, 本文全体の論拠と主張の関係

【トールミンモデル】



を図式化させる。この学習は、どのような形態の説明的文章や実用的な文章と出会っても汎用できる力を鍛えるものとする。

また、間瀬茂夫（『広島大学附属中・高等学校国語科研究紀要第50号』2019年p73）は、「説明的文章は読み手に新たな知識を提示し納得を得ようとするものである。とするならば、文章を読む際に『論理』を理解することは、筆者による説明や主張を単なる『情報』としてではなく、妥当性のある『知識』として受容するために必要な行為であり、一方で、それらを新しい知識として受け入れてよいかどうかを批判的に吟味するために行う行為ということになる。」と述べる。論証の方法を身につけることで、文章をメタ的に捉えて評価・批評する力をつけさせることにもなるだろう。

指導にあたっては、能動的で深い学びをねらうため、①生徒自身に問いを立てさせる②学習目標の提示③話し合いの場の設定④ツールミンモデルを取り入れたワークシートの活用、という工夫を行う。

題 目 ツールミンモデルを活用した主体的・対話的で深い学びの取り組み

本時の学習目標

1. ツールミンモデルを活用して、文章全体の論証ができる。

本時の評価規準（観点／方法）

1. 評論の内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に適確にとらえ、要旨や要点を把握している。（思考・判断・表現Cア／ワークシート）

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
〈導入〉 前時の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> 文章前半の論証を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> パワーポイント資料で簡潔に要点を伝える。
〈展開〉 1 論証した自分の考えを班で交流する。 2 班で話し合ったことを全体で交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ツールミンモデルの〔D〕データにあたる部分と〔W〕論拠にあたる部分を捉える。 班でまとまった意見を全体に発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 4～5人グループで話し合い活動を行わせる。 ホワイトボードに班の意見をキーワードで簡潔に示させる。 発表では、つながりの理由を説明させる。
〈まとめ〉 論のつながりを確認 次時の予告	<ul style="list-style-type: none"> 論のつながりを詳しく確認することを伝える。 	
備考		

〈問題提起〉

〈 の主張の論証〉

〈根拠〉

〈 の主張〉



〈論拠：理由づけ〉

〈主張〉

実践上の留意点

1. 授業説明

本授業は、「問題提起を捉える」という学習目標の下に生徒自ら問いを立て、その課題解決に向けて、ツールミンモデルを活用して話し合いを実施した主体的、対話的で深い学びをねらった授業実践である。特に注力したのはツールミンモデルの活用である。次々と繋げるように書かれているこの文章を生徒自らが整理して読んでいけることを狙って活用を試みた。

展開では、まずパワーポイントにより、文章前半部分の主張・根拠・論拠とそのつながりを振り返った。その後、前半部分の論証を含めた、文章全体の論証を話し合いでまとめさせた。生徒は、前時すでに個人で全体の論証を書き込んでいる状態であった。それを持ち寄った話し合いである。各班で出た意見をホワイトボードにまとめ、それを全体で交流し、意見の比較、検討を行った。生徒の意見を元に、指導者の論証を最後に提示し、次時に情報と情報のつながりを詳しく見て、理解を深めていくことを伝えた。

2. 研究協議より

- ・ 「メディアがつくる身体」という題名と問題提起はどう関わるか。問題提起を解明しようという意図で筆者は文章を書いているのではないのか。
→ この文章の問題提起は「なぜ新しいメディアは論争を起こすのか」だと考えている。メディア論争が起こるのは社会的身体が原因だと筆者は述べている。筆者の主張がそのまま題名になっており、このことから、「問題提起を捉える」という学習目標を設定し、それに迫ることで読みが深まると考えた。
- ・ なぜこの文章を扱うときにツールミンモデルを用いたら良いと思ったのか。
→ 次々と繋げるように書いている文章で、反復も多いので既習の文章構造で捉えるのは難しい。使われている語彙も前提や背景が分からないと理解が難しい。ツールミンモデルを使うことによって、何を根拠として何を主張しているのか論の道筋、つながりを意識して見ようとすれば、内容が理解しやすくなると考えたからである。
- ・ この文章の難解さは語彙の難しさによるところも大きい。語彙に着目をしないと論証に注目して取り組んでも理解が深まりにくいのではないのか。
→ 語彙の説明は必須であると感じていた。授業計画でも予定していたことと合わせて、モデルでの論証の前後、あるいは途中、生徒から質問があったところでその都度確認していった。しかし、モデル活用が主になりすぎて、語彙の着目が不十分だったのは反省点である。
- ・ 文章の分かりにくさ解消のためにこのモデルを活用した取り組みだが、モデルを活用しても分かりにくさは解消されないのではないのか。それは、この文章がメディアと身体観の関係を「差異と反復」という方法で書かれていることによる。反復は同じ内容のまとまりが繰り返し書かれていることだ。形式段落を比較した場合、内容に差異が生じていることから、段落と段落の関係で捉えると根拠と主張のずれ（差異）が生じてしまうことによるものである。生徒は形式段落のまとまりで捉えようとしていた様子であったので混乱をまねいた。ツールミンモデルの活用には限界があるように思われる。
→ 実際の授業では根拠等を形式段落で捉えるのではなく、段落内の内容で捉えるよう導いたつもりだったが、生徒への提示に工夫が必要であった。単純に主張・根拠・論拠と捉えられるものだとモデルの活用は効果的だが、この文章に関して活用は難しかったと感じている。